

選手たちが活躍できるのは、
支えてくれる人たちのおかげ。

地域に愛されるチームであるために、
感謝の気持ちを忘れずにいたいです。

たのです。最終選考では右足
靱帯を切ってしまう事態にな
りながらも、テーピングと痛
み止めで乗り切りました。そ
の奮闘ぶりを評価していただ
き、大阪エヴェッサでプロと
しての活動をスタートするこ
とができました。バスケットを
したいという僕の意志を周りの
方々が尊重してくれたおかげ
です。

**中村さんにとって、大田区
はどんなまちですか？**

大田区は、現在僕が所属し
ているアースフレンズ東京Z
(以下「Z」)のホームです。
地元の商店街は、下町の雰
囲気があって、皆さん話好き
なところが僕の故郷である淀川
区と似ている気がします。

地域の人たちに愛される

チームであることはとっても
大切です。Zのメンバーは、
地元の商店街の方々と一緒
にまちの清掃活動やあいさつ運
動に参加したり、高齢者施設
や児童施設などを訪問した
り、学校でバスケットを教えたり、
地域に根づいた活動を幅広く
行っています。地元の方々は、
通りすがりに「がんばれよ！」
などと応援してくださったり
して、本当にうれしいです。
僕たちの活躍は、ボランティ
アやファンをはじめとする多
くの方々の協力と応援に支え
られています。感謝の気持ち
を忘れずにいたいですね。
また、チームが常に明るく
前向きなムードを保てるよ
う、声を出して盛り上げてい
くのが自分の役目だと思っ
ています。

**ご家族や子育てについて
教えてください。**

妻と娘2人(8歳と6歳)
の4人家族です。出産には2
回とも立ち会いました。妻が
長女を妊娠したときは、僕は
何もできなかったな…と反省
しています。出産後も、何を
すればよいのかわからなく
て、最初は赤ちゃんのお世話
も家事も、妻に任せっきりで
した。でも、お風呂やおムツ
替えなどを手探りでやってい
るうちに、段々と子育てが楽
しくなってきた、今は自分か
ら動くようになりました。ま
た、妻は子どもを優先して自
分のことを後回しにしがちで
す。彼女が美容室や買い物に
出かけ、自分の時間を持てる
ように気配りをしています。
娘たちはおかげ様で元気に
育っています。帰宅すると、
「パパ、大好き」とか「がんばっ
てね」などと書いた手紙が置
いてあるんですよ。試合でプ
レイする僕を見て「かっこよ
かったよ!」とほめてくれる
ことも(笑)。たまらないで
すよ。遠征で家を留守にする
ことも多いので、会えるとき
のコミュニケーションを大切

にしています。子どもがやり
たいことを尊重しながら、あ
いさつがきちんとできる、優
しい子に育ってほしいと願っ
ています。叱ることはあまり
ありませんが、お茶碗にご飯
粒が残っていたら注意しま
す。食べ物を大切にすること
は、幼い頃からの祖父の教え
です。自分にとって祖父の影
響はとても大きかったので、
僕も子どもたちのお手本とな
る存在でありたいですね。そ
して、バスケット選手として、子
どもが憧れるような活気あふ
れるチームづくりをしたいで
す。

アースフレンズ東京Zで
は、試合時にLGBTの理
解を深めるための取り組み
を行っています。

